

梁宇姣（女）

2003年 9月 - 2007年 7月 中国東北大学  
2008年 10月 - 2010年 4月 日本亞細亞友之会外語学院  
2010年 4月 - 2011年 3月 東京IT会計専門学校  
2011年 4月 - 明治大学大学院 会計専門職研究科

### 自らの選択を諦めずに

時間はあつという間に過ぎて行きました。私は2008年10月、亞細亞友之会外語学院に入学し、2010年に明治大学大学院に合格しました。日本語学校での勉強は、私の留学生活の出発点なのです。ここで、私に細かく指導して下さった日本語学校の先生方にお礼を申し上げたいと思います。

#### （一）日本語の勉強について

私は中国の大学で日本語を専攻してきましたので、来日前、既に能力試験N1に合格していました。日本に行ったらすぐ大学院に入れると思っていましたが、日本に来てみると自分の日本語が全く通じなくて、まわりの日本人の話している日本語が全然理解できませんでした。日本語学校での勉強を通して、私の日本語は話す、聞く能力が大幅に向上しただけでなく、2回も能力試験N1に合格しました。「焦らずに日本語学校でしっかり日本語力を養ってから研究生・大学院生に挑戦したほうがいいですよ」というメッセージは後輩たちに一番伝えたいことです。なぜかと言うと、将来どんな専攻であっても、まず大学院の先生の講義を理解できなければなりませんし、また提出したレポートと論文も先生に理解して頂けないと何も始まらないからです。最後に言いたいのは、日本語学校を卒業したら、もう日本語学校にいる時の様に、細かく親切に日本語を教えてくれる先生はいないということです。

#### （二）大学院の入学試験と勉強

大学院に進学することを目指して日本に留学することを決心しました。瀋陽へ面接を行った時に、石川先生と校長先生に「早稲田大学大学院の日本語教育研究科に進学したい」と言いましたが、結局別の大学院で研究科も別なところに入学しました。在学中、校長先生や石川先生は大きな支えとなって下さり、たくさんの助けと励みを頂きました。大学院の会計研究科に入るため、私は一年間専門学校で会計の専門知識を勉強し、その後明治大学大学院に合格できました。会計研究科を選んだのは、卒業後日本で就職したかったからです。会計はとても専門性の高い学問なので、学ばなければならない専門知識がたくさんあり、大学院の筆記試験の範囲も広くてとても大変です。大学院の面接の時に、「金融商品、先物取引」などのような専門性の高い質問が出てくる可能性も大きいようです。私は事前に教授と連絡を取ったり、メールのやり取りをしてなかったので、直接学校に出願し大学院の試験に参加しました。筆記試験の成績が十分優秀であれば、合格できるのですが、やはり事前に教授と連絡を取ったほうが合格できる確率がもっと上がると思います。大学院

の研究生活は非常に忙しいですが、とても充実しています。私はアルバイトをせずに全ての時間を勉強に使っています。正直に言って、会計研究科の学生はたぶん誰もアルバイトをする暇なんてありません。卒業に必要な単位数がとても多く、毎学期たくさんの授業を履修しなければなりません。会計の専門性が高いので、期末試験でも自分の運命を決める大学入学試験のように非常に緊張しています。しかし、試験の成績を見れば、自分の努力は決して無駄ではなかったことが分かって、心の奥から喜んでいます。自らの選択を固持し努力さえすれば誰でも夢が叶うはずです！

最後に、私の母校の先生、亜細亜友之会外語学院の野左近校長先生、そして私を指導して下さった全ての先生方に心からお礼を申しあげます！後輩の皆さんのが自分の夢を叶えられるように願っています。